広報 かじき

No. 230

昭和49年10月5日

発　行／加治木町役場
編　集／総務課文書課

帰り来て秋草に猫抱きあぐる

（牧　笛郎）

3年生男女のフオークダンス（加治木中で）

昭和49年
10月号

■メ　モ　　人口／20,039　　男／9,442　　女／10,597　　世帯／6,446　　（49年9月1日現在）

和牛など55頭が出場

町の畜産品評会

ズラリと審査場に並んだ牛に目が集まる

四十八年度の町畜産品評会は八月三十日、午前八時から、旧種馬所跡で行われ、各大字から和牛三十四頭、肉牛十五頭、種豚六頭が出場しました。

各部の入賞者は次のとおりです

▽和牛一部

優等＝沢崎菊夫（木田）日高重則（小山田）末吉君子（同）

一等＝長谷重行（日木山）向江清（辺川）沢崎菊夫（木田）前村正次（辺川）犬童貞己（小山田）

二等＝増田新（木田）福森信夫（西別府）桃木野清光（同）市野親義（小山田）

▽和牛二部

優等＝桃木野政男（西別府）内村春子（小山田）小宮路進（辺川）

一等＝内村侃（西別府）汰木定治（辺川）垣内光男（小山田）三好茂（同）石神トミ子（西別府）中村正紀（同）

二等＝松葉瀬一二三（小山田）大宮路時義（辺川）内村源次（西別府）内村一男（反土）吉村勝男（日木山）

▽和牛三部

優等＝石原静喜（木田）外村秋男（西別府）

一等＝満留武二（小山田）

二等＝戎栄蔵（木田）末吉満也（小山田）徳部松夫（小山田）外村一夫（西別府）

▽肉牛去勢

優等＝市野親義（小山田）岩穴口修（木田）下楠園正昭（同）

一等＝下楠園正昭（木田）増田新（同）岩穴口修（同）市野親義（小山田）

二等＝高崎清（小山田）岩穴口修（木田）

▽肉牛・牡の部

優等＝和田豊吉（木田）

一等＝市野親義（小山田）田丸孝男（木田）

二等＝市野親義（小山田）

▽種豚の部

優等＝柚木邑子（反土）末吉君子（小山田）

一等＝河越鉄三郎（小山田）

二等＝柚木邑子（反土）河越鉄三郎（小山田）

▽チャンピオン賞

（農業委員会長賞）

肉用牛…石原静喜（木田）

肉　牛…市野親義（小山田）

種　豚…柚木邑子（反土）

▽大字別の成績

肉用牛の部　①木田②辺川③小山田

肉牛の部　①木田②小山田

種豚の部　①小山田②反土

入賞おめでとう　ございます。

有利な〝たばこ作り〟

公社と耕作組合が呼びかけ

専売公社国分出張所と国分地方たばこ耕作組合では、来年度たばこ耕作の増反運動を展開しており管内の農家に、たばこ作りを呼びかけています。

たばこ作りが大変有利

①…十アール当たりの代金が四十万円も夢ではない。

キロ当たり代金も大幅な値上げが予想され、十アール代金は平均三十万円以上となり、四十万円の人も現われるものと思われます。

②…一日当たりの労賃が四、五千円になる

十アール代金が三十万円とすれば、その生産者は約十万円残り、二十万円が労働報酬です。労働日数は四十日から五十日程度ですから、一日当たりの労賃は四、五千円になります。

③…乾燥室は二～三分の一の補助金を支給

一・五㌶以上の面積の共同利用には二分の一、その他個人も含めて三分の一の補助金が公社から支給されます。

④…立枯病の心配なくなる

立枯病で廃作した人が多いでしたが、本年度からコーカーという立枯病に強い品種が作付けされ、収穫も一割程度多く、乾燥もしやすく、きれいに上がります。

赤い羽根共同募金

皆さまのご協力を

国民の助け合い運動である、共同募金が展開され、ことしで二十七週年をむかえますが、この間、みなさまの一方ならぬご理解とご協力によって順当に発展してまいりましたことを厚くお礼申し上げます。

今年もまた、めぐまれない方に少しでも幸せになっていただくため、次のように共同募金を行うことになり、例年どおり町婦人会または部落自治会長さんがたにお願いすることにいたしましたので、よろしくご協力願います。

○募金の期間

十月一日から三十日まで

○お願いする金額

一戸当たり目標額一五〇円

話題あれこれ

バタ足や潜水など
柁城小で水泳大会

柁城小では、恒例の校内水泳大会を九月十二日に行なった。あいにくの曇天で、水につかると肌寒いような天気でしたが、子どもたちは元気にプールに飛び込み水しぶきをあげ、種目に挑戦しました。

ボールや浮き袋などを使ったバタ足十七㍍競泳や潜水、班別対抗など三十一の種目が次々に展開され、友だちやつめかけたお母さんたちの大きな声援がつづきました。

夏の名残りの水泳大会を終わると間もなく秋の大運動会です。

〝縄文村からのたより〟
作業員が文集を発刊

三締寺遺跡の発掘調査に従事した人たちの作文集「縄文村からのたより」が発刊された。貴重な体験を記念に残そうと、有村進さんらを中心に五十代、六十代の作業員が数十年振りに作文にまとめたものです。この話題は九月六日の朝NHKテレビで十五分間放映されました。作業員は次の方々です

石野＝石野チエ子、石野ソデ、石野ミツエ、石野博子、石野幸雄前田キミ、山口アキエ、小竹原キク▽長谷＝緒方トキ、緒方ハツミ緒方フデ、上村シゲ、上村ミカ、常盤スミエ、音ノ宮キクノ、徳永美彦▽中野＝松元ノブ、本中野ヨネ子、中野サ子、梅木マス子、梅木ハツメ、西浜ユミ、有村ハル子坂元秀義、有村進、古城文子。

チビッコ・ソフト大会
第一回優勝は城東地区

第一回の町内チビッコ・ソフトボール大会が、町総合グラウンドで開かれ、城東地区が優勝、真新しい優勝旗を獲得しました。

この大会は、町商工青年部が町内のチビッコたちへのプレゼントとして今年から始めたものです。商工青年部では、この大会を伝統あるものにしたいとして、わざわざ優勝旗を新調し、大会にそなえるほどの熱の入れよう。副賞も立派なものがスポンサーの協力で準備されチビッコたちも大張り切り

十チームが参加、▽優勝＝城東②城北、③永原、▽最優秀選手賞上園克美（城東）▽敢闘賞＝福崎太（城北）▽打撃賞＝柳迫茂起（城東）なお、記念のメダルが三位までの全選手に贈られました。

ゲートボール教室の
お年寄りに修了証書

町教育委員会では、七月から始めた三つのスポーツ教室のうち、お年寄りを対象にした高齢者ゲートボール教室の修了式を八月二十六日に行ないました。

この教室には、最年長の林笑蔵さん(六二)於里＝や女性七人を含む三十五人が入校。月二回、午前九時から二時間、町体育保健課の職員からゲートボールのルールや玉の転がしかた、ゲームの駆け引きなどを勉強、規定の二十時間を習得したものです。

修了生の一人、山上フミさん(六八)柳田＝は「教室がある前の日に家事のきり回しをすませるんですヨそのくらいゲートボールのある日が待ち遠しくて…。これからも機会があればドンドン出たい」と。

南汐入に九州自動
車道職員の宿舎

日本道路公団・鹿児島工事事務所では、九州自動車道職員の宿舎を加治木に建設することになり、五月から町内の南汐入で工事をすすめています。

宿舎の構造は、鉄筋コンクリート造り、四階建て三十六戸（三LK十六戸、三DK十六戸）で、完成は十二月初旬の予定。

この宿舎が完成すると、鹿児島市にある鹿児島工事事務所や加治木維持事務所、溝辺線の工事事務所などの職員が入居するということです。現在、あちこちに借家住まいしている九州自動車道関係の職員や家族も、宿舎の完成で落ち着きをとり戻せることでしょう。その折は関係地区の皆さま、よろしくお願いいたします。

お知らせ

凶器犯罪の防止で全国いっせい取締

最近、全国的に刃物を使用したハイジャック事件や猟銃による警察官殺害、主婦人質事件、そして記憶に新しいところでは丸の内ビル爆破事件などの火薬類を使用した各種の爆破事件、凶器を使った少年の集団抗争事件などが、あいついで発生しています。

県内でも今年の半年間に凶器を使用した殺人、強盗、強かん、傷害など百六十九件の犯罪が発生しています。

そこで警察では、これらの凶器による犯罪を防ぐために九月十七日から十月三十一日までの四十五日間、全国いっせいに〝凶器使用犯罪の集中取締り〟を設けています。

危険な凶器となるようなものを①持たせない、②持たないよう、皆さまの理解と協力を求めています。

税金は有利な「青色申告」

毎日つけていた帳簿をもとにして申告するのが青色申告、帳簿をつけずにいわばドンブリ勘定で申告するのが白色申告です。

青色と白色のどちらが有利か、それはもちろん青色です。青色には所得から差引かれる特典が全部で四十一もあって、青色は白色にくらべると、ぐっと税金が安くなります。

「…青色にすると帳簿をつけなければならないし…」という心配もいりません。大丈夫です。

手続きや帳簿のつけ方は、加治木税務署や町商工会で詳しく教えていますので、お尋ねください。

暮らしに大きな役割〝郵便貯金奨励運動〟

郵政省では、十月一日から一カ月間「豊かな暮らしと住みよい社会をつくる郵便貯金奨励運動」を行っています。

郵便貯金は、日常の経済生活の安定と豊かな財産づくりとともに国の財政投融資の大きな資金として、わたしたちの暮らしに関係の深い住宅、学校などの建設や道路、港湾、上下水道などの拡充整備、農林漁業、中小企業への融資などに運用されています。

国民の暮らしに大きな役割を果たす、この運動にご協力ください。

今月の納税　町民税・固定資産税（第三期分）

十一月十五日～十七日まで
九時から十六時三十分まで

●場所
町福祉センター・大ホール

●出品についての詳細は町立図書館にお問い合わせください。

町美術展に皆さまの作品をお待ちします

第十六回・町美術展が十一月十五日から三日間、町福祉センターで開かれます。係りでは、町民のみなさまがたの作品を出品していただくよう望んでいます。

●日時

月青しはにわに言葉ある如し　中山待香
秋蟬の声降るところ木椅子あり　横山江南
怠りしけふの絵日記蟬ひとつ　井上透山
ターミナル光芒中の居待月　三浦大鵬
虫の楽地に満ち心静かなり　恒吉斗南
芋の露ショパンの練習曲流れ　鶴田耕
稲の花匂う夜明けの田を見守る　林玄洋
秋桜日増しに庭を飾りけり　田代俊一
熊蟬じりじりなき林苑しげらせたり　永田禾陽
双肌を脱ぎて冷麦を啜りけり　伊丹靖博
幼稚園に招かれ敬老の日なりけり　白尾建樹

米の購入は登録店で

米の消費者価格が改定されるということで、米穀販売登録店ではかねての消費量を上回る購入がなされたり、とくに注目すべきことは、かねて全然購入していない人つまり、お得意さんでなかった人まで大量に購入した現象がおこりました。

これは、いわゆる〝買いだめ〟という行為だったのです。精米の長期間保有は品質低下を生じたり新米の出回り期でもあります。このような買いだめは、決して有利ではなかったことになります。

①かねて、お得意さんでない人が、なぜ販売店に買いに来るか

②この人たちは今まで、どこでお米を購入していたのだろうか

お米は、食管法で勝手に売ってはならないとされています。米の販売は、知事認可の登録店でしかできません。このようなことを考えるとき、これらの人たちは今まで、無資格のヤミ商店やヤミ業者から購入していたとしか、考えられません。

近く、このような不法業者の取締りをしますが、今後は自分や家族の健康を守るためにも、衛生的で、清潔で、正量の政府米を販売している米穀登録販売店から購入するよう、消費者みずから勉強し考えることが大切です。

□お米は十四の登録店で

町内の米穀登録販売店は、次の十四店です。この以外の店で、米を売っているところはヤミ屋ですお米は、信用のある登録店で必ず購入しましょう。

木場商店＝岩原西　③二九一一
榎薗商店＝御狩山　②二七一八
今田商店＝新富町　②二五二三
瀬戸山配給店＝錦江町③四一二〇
橋口米屋＝錦江町　②二七一七
池田商店＝永原　③二二八一
三幸商会＝本町　②二五二四
岡山米店＝錦江町　②二〇一七
岩田商店＝朝日町　②二三三五
村田商店＝朝日町　②二二一六
池田商店＝岩原東　②二〇五八
法元商店＝田中　②二三一三
今薗商店＝垂ノ口　②二五四三
片平商店＝仮屋町　②二三九一

ほんにハズンモシタ

高井田 里の下 初の部落運動会

秋風の立つ九月一日と十五日の両日、早くも町内で二つの部落運動会が開かれました。

この運動会は、高井田（一日）と里ノ下（十五日）の部落が、今年から初めて行ったもので、二カ所とも初回とは言えないほどの出来ばえで、種目への出場者も多く気苦労していた部落関係役員たちをホッとさせていました。

高井田部落（百三十五戸・城松夫会長）は、竜門団地前の運動場で開き、台風十六号接近の情報を気にしながら三、四年生の百メートル走から一般の班別リレーまで、二十三のプログラムが次々に展開され子どもや両親への声援や笑いが続きました。

とくに、わがウッカタ（奥さん）をオンブして走る競技には、観覧席も上や下への大爆笑。その様子は、ご想像におまかせします。

城松夫会長は「体力づくりを部落づくりに結びつけること。それに住宅入居者が多いので、レクリエーションを通じて親睦を深めることが目的です。明日からは、あちこちで〝コンニチワ〟が、かわされるでしょう。とにかく役員のおかげで良いプロが組まれ、これに部落民が良く協力して、予想以上の参加があり、こりゃもう大成功です」と、ご満悦でした。

一方、里ノ下（四十七戸・佐藤次男会長）でも、第一回の運動会が決まりプロの編成や競技内容の選択に役員が再三の鳩首会議。

いよいよ当日は、部落内にある精矛神社の広場で開会。佐藤次男会長が「昨年までのバス旅行をやめ、部落の先輩たちを敬い、長寿を祝う部落運動会をすることに決まり、プロを組んだ。満足のいくものでないが、親や子、孫、ヒ孫まで部落全員で、この運動会を盛り上げて、今日の一日を楽しく過ごしてほしい」とあいさつ。

まず、部落を二つに分けての、ぢいちゃん、ばあちゃんからヒ孫までの綱引きで競技開始。固い気分がホグレたあと、各種目に出場者が続出。会長や役員、賞品係をあわてさせる場面も再三、出る始末。ついに控え目に組んだプロに子どもや婦人、お年寄りたちからもっと走りたい、出たいと、注文がつき、三つほど新種目を追加。

午後は、幼児から、お年寄りまで全員で踊るハンヤ節やオハラ節で再開、やがて最後の小学生から六十代まで八人による、長い人生班別リレーで最高潮。

こうして里の下でも、「こげんはずんとは思いもせんなったなー」とあちこちで喜びの声がしきり。「おかげさあで、こんとしで何十年振りに運動会に出せんもろて」と、これまでのバス旅行で引っ込み勝ちなお年寄りたちが、身近に参加できたことが成功の一大原因

こうして試みに行われた二部落の運動会は、予想外の好評で、部落会長や役員、部落民もさらに、来年への期待を大きくしていることでしょう。

あめ食い競走の白い顔＝高井田

部落を二分して綱引き＝里の下

お祝いに指輪のプレゼント

「町内で最高齢者のおばあさんにあげてください」と、紅白のケースに入った指輪（K18）が、このほど町福祉課に届けられました。

九月十五日、九十八歳の赤崎ツ子さん（諏訪町）を訪問した曽木町長から、贈り主にかわり指輪がプレゼントされました。

この指輪の贈り主は、町内・錦江町で時計商を営んでいる瀬之口満済さん(47)で「二十九歳のときに母親を亡くした。死に目に会えず残念だった。親孝行したい時に親は無しですよ。汐入部落の敬老会準備をしていてフッと母親を思いだし、子どもごころに長寿のお祝いをして見たかっただけです」と善意のキッカケを話していました

瀬之口さんは商売のかたわら、町子ども会育成会の会長、加中PTA補導部長など十二の役職を引受け、各方面で活躍されています

最後に「どんぞこ生活から、立ち上がれたお礼を社会にしたいのです」と大きく笑いながら、頭をかく瀬之口さんです。

初の歩行者天国 蒲生田通り開放

＝秋の全国交通安全運動＝

秋の全国交通安全運動は、九月二十一日から三十日まで行われ、歩行者・自転車利用者の事故防止とくに子どもと老人を交通事故から守ることに重点がおかれました

この期間中、町内では初めての試みとして蒲生田通りが、歩行者用道路（歩行者天国）として午後三時から六時まで、歩行者に開放され、夕方の買い物客や下校する子どもたちの好評を得ていました

また、交通安全協会の柁城分会（川上仁・会長）では、柁城小の鼓笛隊＝百八十人の賛助を得てパレードを行い交通安全運動の周知と事故防止を町民に呼びかけました。

読書週間

本との出会い豊かな心

10月27日／11月9日

婦人会だより

いよいよ今年度の後半期を迎えました。会員皆さま方のご協力で婦人会活動も順調にすすんで参りました。不慣れな私どもで、これまで目にあまる事が、多かったことと思いますが、今後ともその折ご叱正くださり教えていただきたいと存じます。そうしてもらうことが、町婦人会の発展につながるものと信じています。

私たち婦人会は、学習・親睦・奉仕・の三つを柱に、全員一人ひとりが手を取り合って、明るい家庭をつくり、地域社会の発展のために努力しよう―という目的でつくられた団体です。その活動も沢山ありますが、今年度の行事の中から二、三取り上げてみます。

学習…生活学校が今年度も五回にわたって開講されます。毎日の生活の中で、疑問を感じる事が多くあると思います。それらを持ち寄り、一人の力では解決できない問題を、みんなで学習し、より豊かな生活を目指して進んでいます

親睦…一人の人間関係はもちろんですが、町内の婦人団体が、お互いに協力し合って明るい町づくりをと、連絡会がもたれ、意見交換をしました。これからも実施する予定です。

奉仕…生活の簡素化を目指している婦人会として、結婚式事業を町福祉センター式場で行い、経済的で、しかも厳しゅくなものと利用者から喜ばれています。

オムツ一枚運動を行い、皆さんからよせられたオムツが、今回は千六百枚になりました。九月下旬にオレンジ学園と南九州病院へお贈りし、感謝されました。

最後に、婦人会に加入したいが部落に婦人会がないという方は、町社会教育課内の婦人会あてにお電話ください。

香典返しを寄付

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申し上げます。

□町社会福祉協議会へ

三万円　札立　中原茂年（母チカ）

三万円　田中　稲田　進（妻阿や子）

五万円　本町　玉利泰宏（妻キミ）

一万円　諏訪町　草野ミツ子（夫虎彦）

三万円　吉原　坂元盛豪（母ヒロ子）

一万円　萩原　木佐木フミエ（夫親志）

三千円　田中　浅井光子（父新郎）

一万円　布越　脇トミ子（夫国夫）

二万円　端山　分部省吾（長男和裕）

□町育英奨学資金へ

二万円　田中　稲田　進（妻阿や子）

五万円　本町　玉利泰宏（妻キミ）

※九月二十日までのご寄付を掲載いたしました。

町内の在宅医

【十月】

6日　岩崎(昭)医院②二三一五
10日　池田医院②二二二〇
13日　大川医院②二〇三二
20日　神田橋医院②二〇二四
27日　平山医院②二四六八

【十一月】

3日　玉利医院②二三二八
4日　壱岐医院②二二二二
10日　池田医院②二二二〇
17日　岩崎(昭)医院②二三一五
23日　大川医院②二〇三二
24日　神田橋医院②二〇二四

■診療時間は午前九時から午後五時までが原則です。

■当日の往診ならびに緊急以外の受診はご遠慮下さい

随想 58

夜長に思う

曽木　隆輝

友人に贈られた朝顔も秋風とともに枯れて、庭の隅ではこおろぎが鳴きだした。ある夜、一人の老人が訪ねてきた。

大へんなれなれしく語りかけられるので、どこのだれか聞きそびれて、何かキッカケをつかもうとするが、どうしてもわからない。結局、加治木の人ではないが、関西方面で商売をしていて、何年ぶりかに帰鹿し、ついでに加治木へやってきたことだけがわかった。

別に用事はないが、金はあり暇はあっても、若い家族と話も合わないので、ときどき旅へ出て、昔話を聞くのを楽しみにしているのだとわかった。いわゆる老人の孤独感がそうさせたのだろう。

敬老の日に二十人近い九十歳以上の高齢者を手わけして訪問し、その前日には、三百人近い八十歳以上のかたとその代理人をお招きして慰問申しあげた。

高齢者のみなさんの顔や手、短い言葉のなかに、長い人生、それは幾多の苦難や風雪に耐え乗り越えてこられた尊い年輪をうかがえて、そのご健康を祈らずにはおられなかった。

同時に、独居のかたや寝たきりのかたに、口にこそだされないがよる年波に、そして暮らしにくい昨今の世情のなかに、いい知れぬ寂しさ孤独感にいつも襲われておられるように察せられるかたも見受ける。

私は慰問から帰宅して見ると、加中生徒からの慰問文や部落婦人会からの贈物がとどいていて、はて自分自身も受ける年齢だったのかとハッとした。歳月人を待たずか。

夜長に本を読んだり、書き物をしたりしているうち、ときどきポカンとすることがある。そばから家族が、何をボンヤリしているかときく。別にと答えるが、ほんとは総需要抑制という厳しい時代にインフレ下の町の財政を、事業をどうあんばいするか、住民の諸要求をどうとりいれるか、社会福祉とくに老人福祉問題とか職員の給与問題など名案はないかと思索しているときだ。

解決せねばならない問題がつぎつぎに起こる。私は冷静さは失わぬよう心がけ、よく考えながら物ごとに対処せねばと思う慎重居士のそしりを受けるだろうが、腹がないと笑われても、町民の町なのだから。